

「長崎さるく入門」 「長崎地域研究」

児童保育学科准教授

岩瀬 由佳

平成28年度に新たに開講した科目の中で、地域について学ぶ科目のご紹介です。

「長崎さるく入門」では、長崎独自の歴史と文化及び観光に訪れる人に伝える方法・態度を実習を通して学びます。また、この授業で一定水準の成績を修めた場合には、長崎国際コンベンション協会の「さるくガイド」資格を取得できます。今回、資格を取得した学生は、59名となりました。現



さるくガイド資格 授与式 (提供 長崎新聞社)

在、「さるくガイド」として既に活躍中の学生もいます。

授業では、事前指導や事後指導を大学で行い、学んできたことに対して、グループごとに意見を出し合い、振り返りを行いました。コンベンション協会の集中講義では、「さるくガイド」を学ぶために、夏休みは「まちあるき」をたくさん経験したようです。

学生のレポートには次のようなコメントがありました。

『アナウンサーや銀行員の方などから、話し方や笑顔など、人と接するときの大切なことを学び、自分のためにもなった。』『年代の違う人とグループになり、一緒に学んだことで、さまざまな考え方を知りました。』

実際に、長崎のまちを歩きながら学ぶことで、さまざまな経験や社会的な学びができたようです。

「長崎地域研究」では、長崎の文化を通して長崎のまちに興味を持ち、深く知り、愛着を持ち、それをどう生かしていくかを学びます。テーマごとに、講師を



丸山華まつりにおいて



お呼びしたり、体験学習をしたり、その後ディスカッションをし意見を深めたりする学びをしています。11月には「丸山華まつり」(梅園天満宮大祭)に参加し、積極的に活動していました。学生のレポートからは、

「たくさん問題提起がなされていきました。地域行事に係として参加することによって、深く先を考えるいい学びができています。以下学生のレポートから。『自ら学んで実際に体験・経験することができた今回の講義は、自分の将来にもつながれたらいいし、さらに意欲が増すものとなって良かった。』『地域活動の現状を知り、自治体の大変さも感じた。行事をする時には、町内外の協力なしには困難であることを知り、考えさせられた。』」

各テーマの講師の人物に

触れ、それぞれの職業から話を聴くことで、毎回いろいろなことを考えている様子がレポートから伝わってきます。また、学びに取り組み姿勢も熱心です。現在1年生である学生が、今後さまざまな学びを深め、さらに頼もしく成長するでしょう。

純心のニュースをお届けしています

大学の最新ニュースやイベント情報は「公式ウェブサイト」をご覧ください。また、「入試広報課 Facebook」でもさまざまな情報を発信しています。

長崎純心大学 公式ウェブサイト

<http://www.n-junshin.ac.jp/univ/>



入試広報課 Facebook

<https://www.facebook.com/n.junshin>



医療と福祉の多職種連携教育とおした地域包括支援システムの構築に向けて

人文学部長補佐
医療・福祉連携センター長
潮谷 有二

長崎純心大学医療・福祉連携センター（以下、センターという。）は、長崎大学医学部と連携して文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」を実施するために、平成25（2013）年10月に設立されました。

そして、センターでは、当該事業として平成25年度より「つなぐ医療を育む先進的教育研究拠点の構築―人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成（以下、プロジェクトという。）―という両大学の連携事業に積極的に取り組んできています。

幸いなことに、平成27（2015）年度までのプロジェクトに対する文部科

学省の中間評価では、A評価を得ることができました（テーマBに対する中間評価結果は、評価が高い順にS評価は1件、A評価は8件、B評価は5件、C評価は1件、D評価は0件）。

このような高い評価を得ることができたのは、平成25年のセンター創設以来、センター教職員が一体となって根気強くプロジェクトに取り組んでいることに加え、長崎大学医学部との緊密な連携のもと、平成26年度からの「NICEキャンパス長崎」や「長崎地域医療セミナー in GOTO」、平成27年度から本学に開講された「地域包括ケア論」と長崎大学医学部と



第4回 長崎地域医療セミナー in GOTO



平成28年度 長崎大学及び長崎純心大学共修授業

の「共修授業」などに、本学学生たちが主体的かつ継続的に参加し、将来を見据えた成果を上げてきていることに起因しているものと確信しています。

また、改めて、これまでの取り組みを振り返ってみますと、プロジェクトに参加する学生たちへの本学事務局職員による献身的なバックアップ体制をはじめ、「地域包括ケア論」での講義を快諾してくださった長崎県内の行政機関や地域包括支援センター関係者の皆様、そして地域包括ケアの最前線においてソーシャルワーク実践を展開している

本学卒業生たちの大きな支えがあったからこそ、プロジェクトが遂行できているということを特筆しておきたいと思います。

周知の通り、我が国では、少子高齢化と人口減少という、他の先進国が経験したことのない社会経済構造の急速な変化を受けて、社会保障の持続可能性が問われ、住み慣れた地域の中で、医療と介護サービスを一体的に提供するための地域包括ケアシステムの構築が目指されています。また、最近では、そのような地域包括ケアシステムを更に深化させ、その対象を高齢者に限らず、全世代・全対象とする地域包括支援体制の必要性についても提唱されています。

このような状況に鑑みても、当センターが取り組んできた種々の活動は、社会保障を取り巻く環境の変化や地方創生といったことも視野に入れた、地域包括ケアシステム/地域包括支援システム構築の実現可能性について先駆的に探究してきたものであると自負しています。

平成29年度は、プロジェクトの最終年度であるとともに、本学「現代福祉学科」が「地域包括支援学科」へと名称変更する節目の年になります。これを踏まえ、平成29年度以降も引き続きプロジェクトが医療と福祉に係る多職種連携教育の「長崎モデル」と称して確実に発展していけるように、センター教職員一同、尽力していきたいと思っております。

教材 DVD ができました 「長崎発！地域包括ケアシステムの構築」

教育機関等に無料で配布致します。

ご希望の方は
医療・福祉連携センターまで
ご連絡ください。

☎095-842-8787

✉cmw@n-junshin.ac.jp



入試制度改革への取り組み

入試広報課長

甲斐 秀二

平成29年度入試では、新しい二つの入試の取り組みを始めました。一つ目は、地方創生特待生入試の設置です。人口減少と少子高齢化が進む今日、長崎県の18歳人口は加速的に減少し、今後九州で最も減少率が高い県と予測されています。このような状況の中で、これからの本学の役割として、地元長崎や地域の発展に貢献する人材を育てていくことが挙げられると思います。本学は人文学部1学部の中に多様な学科を配置し、福祉、学校教育、幼児教育や保育、心理支援等地域や地域住民の支援を中心とした職業に就く、あるいは、長崎の歴史や文化についての知識を修得し、語学を身に付け、外国人や国内外の観光客に長崎の魅力を伝える職業に就く等、将来、長崎や地域貢献に深く関わることができる学指すことのできる学びが可能です。



のような学びを活かし、将来の長崎や地域の発展に貢献したいという強い意思を持つ学生を迎えるために、今回このような入試制度をつくりました。入試方法は、大学入試センター試験で受験した上位2教科2科目の成績と地域志向性を見る個人面接の評価です。本学の入学定員300名の1割に相当する30名の受け入れを想定しています。この地方創生特待生入試で合格した場合、入学料、初年度の授業料、教育充実費が免除となります。2年次以降も本学が定めた成績基準を満たせば、授業料、教育充実費の免除、半額免除が継続します。この入試で入学した学生が、長崎を愛し、長崎を活気溢れる元気な地域にしていける人材として育ってほしいと思います。

二つ目の取り組みは、長期履修学生制度を整備したこと、さらに編入学試験において、純心女子短期大学（長崎純心大学短期大学部も含む）の卒業生に対しては、入学料の免除および授業料と教育充実費を半額にしたことです。文部科学省の報告「社会人の学び直しに関する現状等について」の中の社会人の意識調査において、89%が再教育について、「受けたい」または「興味がある」と回答しています。しかし、日本の大学における社会人入学者の割合は、世界と比較しても非常に低い割合です。大学での社会人の学び直しの障害となっているのが、「仕事をしながら修学できる体制が整っていないこと」や「学費が高い」ことが挙げられます。仕事に必要な幅広い知識や、仕事に活かせる免許・資格の取得のために、開かれた存在となるべき大学の受け入れ体制が十分に整っていないのが現状です。本学では、このような課題が少しでも緩和され、多くの社会人の方々に学んでいただけるよう今後も入試制度改革に取り組んでいきます。

学生による社会活動への協力

学生が十八銀行浦上支店一日支店長、浦上警察署一日署長に就任し、社会活動に協力しました。

2016年12月15日(木) 十八銀行浦上支店一日支店長

年末を控えた防犯対策の一環として、振込詐欺やひったくりなどに関する注意喚起を目的に、十八銀行浦上支店で実施された「地域連携・年末防犯キャンペーン」において、比較文化学科3年生の岩永真奈さんが「一日浦上支店長」に任命されました。

当日の店内は多数の来店者と報道陣で賑わいました。来店者にはシスターと学生たちが焼いた「手作りクッキー」が、お子様には風船がプレゼントされました。



2016年12月8日(木) 浦上警察署一日署長

住吉中央公園にて行われた浦上警察署主催「年末防犯キャンペーン」において、現代福祉学科2年の大久保梨果さんが「一日警察署長」に任命されました。

キャンペーンは、年末における「犯罪・交通事故のない安全で安心なまちづくり」を目的とし、浦上警察署管内のボランティア団体・地域住民の方々と協力して実施されました。防犯グッズを配りながら、特殊詐欺等への注意を呼びかけました。

